

てん菜協会 だより

2017.10.19

第 127 号



発行／一般社団法人 北海道てん菜協会／〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 ☎011-221-2542 FAX011-221-1815
URL <http://www.h-tensai.sakura.ne.jp>



'17農業農村体験フェスタ in 赤れんが

てんさい

収穫作業が始まり、各製糖所も操業を開始した。今年も、春先から好天に恵まれ、病気が少なく、生育も順調なので、昨年の台風被害を少しも挽回してほしいと願っている。

先日、ある雑誌の「地産地消30周年」という記事が目にとまった。

振り返ると、道内では「米チェン」、「麦チェン」、「酒チェン」運動が展開され大きな成果を上げている。

道産米を例にとると、平成8年に過去最低の37%だった道内食率は、今では87%まで上昇しているのだ。

その時、「てん菜糖はどうなっているのだろうか？」と疑問が沸いた。

てん菜を知らない人がてん菜糖を選んで買うわけがない。「シュガーチェンジ」という言葉も聞いたことはない。

我が家でもてん菜糖を意識して買ったことがない(反省)。といった状況では道内食率はさぞ低いのだろう、と思いつつデータを恐る恐る紐解くと、意外にも家庭用で82%もあった。(業務用は94%)

なぜこんなに道内食率が高いのか、その理由を探るべくスーパーの砂糖売り場を覗いてみると、種類はたくさんあるものの、主力の上白糖やグラニュー糖はてん菜糖で占めていた。

つまり、多くの消費者は、意識せずにてん菜糖を買っていたのである(私の独断)。

お見事。製糖会社の皆さんの営業努力に頭が下がる。でも待てよ。消費者がてん菜を理解して、てん菜糖に愛着を持って買ってくれば、道内食率は限りなく100%に近づくのではないか。いや、120%になるかもしれない。

地産地消も道半ば。これからも旗を振り続けたい。

(T. N)

就任ご挨拶

一般社団法人 北海道てん菜協会

会長 小野寺 俊幸



日頃より、当協会の事業推進にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私、過日開催の臨時総会・理事会において、会長の任を仰せつかりました。

今後とも、何とぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、言うまでもなく、てん菜並びにてん菜糖業は、てん菜をはじめとした本道の畑作農業並びに地域経済の発展に重要な役割を果たしております。

しかしながら、近年の作柄状況による収益の不安定化、担い手不足や高齢化、労働力不足等により、安定的な作付面積を確保でき得ていない状況にあります。

今後とも輪作体系の確立や関連産業・地域社会の維持発展につながるよう、てん菜の安定生産に向け、その職責を果たして参りたいと存じます。

最近の農業情勢は、本年7月の

日・EU間のEPA大枠合意、米国防脱に伴うTPP11か国による再協議、規制改革に係わる国の動きなど、依然として激動しており、今後とも予断を許さない状況にあります。

また、国産砂糖の需要も減少傾向にあり、改めて、需要拡大に向けた取組みを充実強化していく必要があります。

一方、てん菜の安定生産に向け、直播栽培の定着化、省力化・効率化に向けた新技術の導入や機械化体系の見直し、更なる優良品種の開発・普及など、さまざまな課題が存在しており、関係機関が連携をはかりながら、課題解決に当たっていただくことが重要です。

当協会は糖分取引への移行に伴い、てん菜の効率生産と原料取引の円滑な推進に関する事業を実施し、てん菜生産者及び糖業者の経営安定と、てん菜産業の健全な発展に寄与

することを目的に設立され、本年で31年目を迎えたところです。

その目的達成に向け、時代の流れや農業をとりまく諸情勢を踏まえた中で、これまでの取り組みを検証しつつ、必要な事業を展開してまいりたいと存じますので、関係各位の特別のご理解・ご協力のほどをお願い申し上げます。

本年のてん菜の生産については、生産現場の努力と天候の推移等も相まって、期待が持てるものと感じておりますが、改めて豊穰の秋となりますようご祈念申し上げますとともに、皆様方のご健勝・ご多幸を心からお祈り申し上げます、就任のご挨拶と致します。

第15回

てん菜研究会開催

7月19日北農ビル（札幌市）において、第15回てん菜研究会（技術研究発表会・定例総会）が開催され、各研究機関・糖業者・生産者団体等から約130名の参加者がありました。技術研究発表会では育種・品種関係が3題、栽培関係が5題、病害虫関係が4題、合計12課題が発表さ

れました。どの課題もてん菜の生産性向上につながるもので大変興味深く、多数の質問・意見等がありました。

また特別講演として、北海道農業研究センター 廣田知良氏（寒地気候変動グループ長）より「テンサイ栽培は近年の気候変動にどのように適応すべきか？」について講演されました。本講演を拝聴し「近年の異常な気象を一過性の現象と捉えるのではなく、今後頻繁に起こるものと認識し、その対応策の検討・実行が必要ではないか」と思いました。



てん菜品種試験の現地調査について

てん菜協会では、てん菜の優良品種認定に向けて各種品種試験を北海道立総合研究機構に委託し、道内各地で生産力検定試験・病害抵抗性検定試験等を実施しています。また適切な時期に各試験圃場を試験関係者にて現地調査を実施しています。



1. 生産力検定試験

道内5カ所で実施。各品種（系統）の収量・糖分の性能等を検定する。



十勝農試試験圃場

2. 現地検定試験

道内3カ所で実施。現地圃場において各品種（系統）の現地適応性等を検定する。

3. 病害抵抗性検定試験

農業試験場の特別な圃場又は特殊な試験方法にて各品種（系統）のそう根病・褐斑病・根腐病・黒根病抵抗性および抽苔耐性をそれぞれ検定する。



美瑛町試験圃場



そう根病抵抗性検定試験圃場



黒根病抵抗性検定試験圃場

農業施設の視察研修

近年農産物を光センサーを使った非破壊検査などで選別・選果を行い農産物の品質向上に成果を上げています。

てん菜は昭和61年以来糖分取引に移行し、品質を加味した取引を行っておりですが、こうした他の農産物の選別システムも今後の業務推進の参考になるものと考え、8月28日に後志管内の農業施設の見学研修を行いました。参加者はてん菜協会の企画調整専門部会のメンバーを中心とした12名でした。

○JAきょうわメロン集荷選果施設
荷受けしたメロンは個別に近赤外線を利用した光センサーを使って非破壊検査を行い糖分測定を行っています。さらに外観検査、重量測定を加味して個々のメロンを3等級に選別、箱詰めも自動化していました。
この施設の稼働で個々の農家での選別作業は不要で省力化がはかられているとのこと。また目視による選別よりも高い選果効果が得られており、メロンの当たり外れもなく、トレーサビリティも確保されています



光センサーによる選果を明示



光センサーによる糖分測定と外観計測装置



光センサーによる内部空洞個体のより分け

ので消費者は安心して購入できることでした。

○JAようてい馬鈴薯集出荷選別貯蔵施設

近赤外線を利用した光センサーで馬鈴薯の内部空洞個体をより分けて、良質な食用イモを出荷できることでした。

大きさ（L、M、S）もカメラで自動選別しています。罹病イモ、青イモなどは人手でより分けています。

また施設には低温湿潤の貯蔵庫があり、「ようてい」ブランドの馬鈴薯を周年安定供給して市場の信頼を得ていることでした。



機械でより分けた個体を切ると内部は空洞である

北糖		ホクレン		日甜		糖業者名 製糖所(工場)	製糖所(工場) 操業開始日
本別	道南	北見	清水	中斜里	士別		
10月15日	10月18日	10月17日	10月16日	10月11日	10月17日	10月17日	10月17日

平成29年度
製糖所(工場)操業開始日程

平成29年産てん菜の生産見込数量(平成29年8月20日現在)

北海道農政部生産振興局農産振興課

(総合) 振興局	[参考]平成28年産(実績)			平成29年産(見込)			[参考]対前年比			参考: 平均収量(※)
	作付面積	ha当たり 収量	生産量	作付面積	ha当たり 収量	生産量	作付面積	ha当たり 収量	生産量	
	ha	t/ha	t	ha	t/ha	t	%	%	%	t/ha
空知	531.63	55.9	29,692	508.68	59.0	30,000	96	106	101	56.96
石狩	1,113.54	56.4	62,846	1,164.90	57.0	66,400	105	101	106	58.29
後志	1,376.49	54.6	75,115	1,295.89	57.0	73,900	94	104	98	54.86
胆振	1,607.31	51.3	82,489	1,512.21	56.0	84,700	94	109	103	57.17
日高	48.60	36.4	1,767	37.68	52.0	2,000	78	143	113	52.80
渡島	154.49	49.9	7,712	157.81	51.0	8,000	102	102	104	51.74
檜山	277.08	52.8	14,624	285.38	56.0	16,000	103	106	109	54.55
上川	3,654.00	58.2	212,632	3,528.00	63.0	222,900	97	108	105	55.60
留萌	191.25	52.6	10,050	199.84	61.0	12,100	104	116	120	43.14
宗谷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オホーツク	23,956.02	57.0	1,364,978	23,481.94	62.2	1,460,500	98	109	107	58.76
十勝	26,056.39	50.2	1,307,518	25,556.54	65.8	1,681,000	98	131	129	61.53
釧路	298.01	54.1	16,115	292.07	60.6	17,700	98	112	110	58.25
根室	124.81	23.9	2,983	117.90	49.2	5,800	94	206	194	47.62
計	59,389.62	53.7	3,188,521	58,138.84	63.3	3,681,000	98	118	115	59.44

※ 平均収量は、直近7か年のha当たり収量のうち最高、最低を除く5か年分の平均

平成29年産てん菜の生産見込数量
 (平成29年8月20日現在 北海道農政部農産振興課発表)

9月26日に、平成29年産てん菜の生産見込数量(8月20日現在)が、道農政部生産振興局農産振興課から上表のとおり発表されました。本年の現在までのてん菜の生育等の概略は次の通りです。

平成28年産てん菜の作付面積

これによりますと、本年のてん菜作付面積は58、139haと前年を1、251ha下回りました。なおこのうち直播面積は13、757haと昨年に比べ553ha増加しました(直播割合は23・7%で前年より1・5%増加)。

てん菜の生育状況

本年は春先の農作業はおおむね順調で、移植定植作業並びに直播播種作業は順調に進捗しました。

定植後の活着や直播発芽も風害や降霜の被害もなく順調でありました。

6月に入り低温多雨寡照で生育は緩慢となり、一部では湿害が発生しました。その後、7月は高温となり生育が回復しました。

8、9月は降水量が少なく干ばつ傾向となりました。平年に比べ気温が低いこともあり、褐斑病や西部萎黄病・根腐れ病の発生が少なく、莖葉および根部は健全な状態となっています。

平成29年産てん菜の生産見込数量

以上のような状況から、生産見込数量(8月20日現在)は、ha当たり収量見込みは平年(59・4t)並びに前年(53・7t)を上回る63・3tとなつています。この結果、全道の生産見込数量は、368万1、000tとなつております。

その後、9月18日に台風18号が北海道に上陸し、大雨や暴風となりましたが、てん菜には幸い影響が少なく、10月1日現在のてん菜の生育状況は遅速日数で早4日となつています(道農政部発表)。

本年は収量・糖分ともに平年を上回ることが予想されます。

今後のてん菜の収穫、受渡作業が安全・順調に進むことを祈念しております。

協会の普及啓発活動

士別ビートまつり

7月2日(日)に「第4回士別ビートまつり」が日本甜菜製糖(株)士別製糖所の構内で開催されました。会場には多くの主に地元のホテル・団体が出店したテントが並び、あいにくの悪天候にもかかわらず市民の関心は高く、前回同様の3,500人の来場者がありました。

当協会は農畜産機構や日甜士別農務課と同じテントで電光パネルやパネル展示を行い、パンフレットや綿菓子配布を行いました。また実体顕微鏡で砂糖の結晶を観察してもらい無漂白自然食品であることを説明しました。

地域の経済、雇用に深い関わりを持つ、てん菜栽培と製糖工場に対する理解を深めるよい機会でありました。



「17農業農村体験フェスタ in 赤れんが」で、 てん菜・てん菜糖をPR

10月14日(土)、道庁赤れんが庁舎前で「農業農村体験フェスタ in 赤れんが」が開催され、当協会も農畜産業振興機構札幌事務所及びビート協会札幌支部と協賛参加し、来場者にてん菜やてん菜糖についての理解を深めていただくPR活動を行いました。

PRコーナーでは、パネル展示のほかに、てん菜の実物を展示し、大

きな根や葉に興味をもっていたきました。

てん菜に係わるパンフレットの配布や綿あめ、羊羹を提供しました。

また、特設ステージでは、てん菜やてん菜糖に関するクイズを行い、正解者の方には3糖業から提供された砂糖製品の詰め合わせを贈呈し、大変喜ばれました。

てん菜やてん菜から砂糖ができることを知らない消費者もまだまだたくさんいることを改めて感じました。

今後もいろんな場面で普及啓発活動をしたいと思えます。



協会の動き

—9月～11月—
(今後の予定含む)

- 企画調整専門部会現地圃場調査 (9月11～12日)
- 十勝・オホーツク管内調査
- 品種試験及びそう根病現地調査 (9月22～28日)
- 糖分測定装置の操業前点検 (全道6糖分測定センター) 9月25～28日
- 上半期末監事監査 (10月10日)
- 「17農業農村体験フェスタ in 赤れんが」協賛参加 (10月14日 道庁赤れんが庁舎前)
- 多畦収穫機稼働状況調査 (10月27日 津別町)
- 第4回理事会 (11月1日)
- てん菜協会・十勝農協農産対策委員会共催によるてん菜受渡し等に係る現地調査 (11月2日 十勝地区3製糖工場)
- 糖分測定センター「立入点検」 (稼働期間中に2回実施) (北海道のうまいもの見つけたい!) 協賛参加 (11月4日～5日 アリオ札幌)